

大野ヶ原地区地域づくり計画書

計画期間 令和5年度 ～ 令和9年度

令和5年3月

大野ヶ原むらおこし会

大野ヶ原地域づくりスローガン

戦後、見渡すかぎりの原野を開墾し人々が暮らし始めた歴史がある
大野ヶ原は文字どおり「**ゼロ**からの始まり」であった
今、豊かに暮らせるのもそのおかげである
そして、西予市は地域づくりを地域に委ねた
行政機関の設置も、地域任用職員を雇用した活動も初めて
これからの地域づくり、大野ヶ原にとっては「**ゼロ**からの始まり」
大野ヶ原には開拓から始まった歴史があり、
ゼロを形に変える力がある
ゼロだから大変なことは多い
しかし、大野ヶ原には**ゼロ**から1歩踏み出す力がある
ゼロだから大変なことは多い
しかし、何色にも染まってない面白さがあるはず

ゼロからだから面白い
地域の想いを形に変えていく
それが、大野ヶ原の地域づくりである



大野ヶ原地区の概要

大野ヶ原地区は、西予市の最東部に位置しており、標高1,400mの四国カルスト高原にあり、高知県に隣接している。年間平均気温は9～10度（最低気温-9.4度）で、冬季は例年20cm～50cm、多い年には2.5mの積雪が3か月続くこともあります。

四国カルストは、日本三大カルストの一つで、石灰岩など奇石が草原に乱立し、ポリエ、ドリーネ洞窟などのカルスト地形独特の特徴を見せています。

総面積の90%以上が森林であり農地面積は136ha。総世帯数29世帯、総人口83名（男性39名女性44名）で、専業農家も多く、20～30歳代の農業従事者も多く後継者が確保されています。

また、市内の小学校が統廃合される中で、大野ヶ原小学校では、生徒数6名程度ではありますが、今後の入学生徒が見込まれることから、健全なむらづくりが進んでいます。

しかしながら、地区内に公共交通機関が通じておらず、最も近い公共交通機関（バス停留所）まで車で30分程度かかり、移動手段は自家用車に限られています。

また、西予市中心部までは1時間30分程度、松山市までなら2時間30分程度かかる交通不便な地域でもあります。

主要産業は、農業であり特に畜産（酪農・肉牛）花卉栽培（デルフィニウム）野菜（大根）等であり、このうち酪農が、西予市が愛媛県全体の約50%のシェアを占めており、大野ヶ原地区は西予市の13.8%のシェアを誇っています。

野菜栽培は、夏季でも冷涼な気候を活かした大根栽培が盛んであり、『大野ヶ原大根』のブランドで認知されています。

また、花卉栽培にも取り組んでおり、高冷地の悪条件を逆手に取り、高収益農業への取り組みが盛んになっています。



むらづくりの動機・背景

①入植までの経緯

大野ヶ原は、古くは弘法大師や源平合戦にゆかりのある神秘的な伝説の地である。戦国時代には、久万の大徐城主、大野山城主直昌と土佐の長宗我部元親勢が、この地で戦った記録が残っており、日露戦争後は旧陸軍の山砲演習場となり砲声がこだました時代もあった。大正末期から昭和初期にかけては営林署の手により植林が行われた。

住民が居住するようになったのは、終戦後、昭和20年代の入植がきっかけであり、カラマツやクマザサの原野を人力で開墾し、ようやく「村」の原型が誕生した。

②幾多の困難を越えて生活基盤の確立を図るまで

人々の進出を阻んできた大野ヶ原につちの音が響いたのは敗戦の翌年。昭和21年6月に、開拓増産隊員15名が無住の荒野に踏み入り、標高1,400mにおける適作試験、気象観測などが始められ、このデータに基づき昭和23年に農林省委託実験農家として7戸が入植。現在の大野ヶ原開拓組合の元である「大野ヶ原開拓組合」が昭和24年に設立された。

昭和25年には、農林省から開拓地として30戸が入植したが、開拓営農は自分たちの住む家を作ることから始まった。当時の住居は板を打つだけの外壁に杉皮屋根、ランプと囲炉裏という簡素なもので、冬季には寒風と吹雪が容赦なく隙間をぬって入り、朝起きれば布団の上に雪が積もり、やかんのお茶も釜の飯もカチカチに凍る有様だった。

また、入植当時の交通手段は主に徒歩であり、生活必需品購入のために外出するのも30km先のバス停まで歩かねばならず、食糧不足から住民の多くが栄養失調に陥った。地区内には、医師が常駐することもなく、病気の際には背負って診療所まで連れて行くが、高齢者や幼児など医師のもとについてはすでに遅く、貴重な命が失われるといった事例もあった。

さらに、「開拓」に伴うさまざまな手続きを松山市で行うことは、宿泊を伴うもので、時間的、経済的に多くの負担を強いられた。その上、冬季の数ヶ月間第1次入植以来、次第に増加し、一時は予定者を含めて100戸にまで及んだ農家も、こうした悪条件に加え、厳しい自然条件によって多数の離農者を出す危機を体験した。

昭和27年6月の長雨は40日間続き、農作物はもとより野草まで疫病で真黒になり、わずかに再発芽したヒエだけが収穫できた。翌年、昭和28年には台風が3回来襲し、作物を根こそぎ飛ばし、甚大な被害をもたらした。

特に、昭和37年暮れから昭和38年にかけて連日雪が降り続いた「三八豪雪」時は、家屋や学校も雪の中に埋まり、町へ下る道も閉ざされ完全に孤立、

県がヘリコプターを出し空から食糧補給を行った。

こうした苦難を乗り越え、大野ヶ原地区は一つの家族のように助け合い、励ましあい、今日では県内トップクラスの酪農地帯を築いた。これは、国策を信じ入植した彼らの強い使命感の表れであり、「働いて働いて尚働いて成せば成るの開拓魂」が彼らを後押しした結果である。

現在、大野ヶ原地区の人口は83人。過疎高齢化が顕著に見られる農山村にあって、地区内の高齢化率は約30%と低く、今後も6人程度の生徒数が維持できる見通しである。地区内には小学校しかなく、中学入学時は親元を離れ寮生活を強いられるが、一度は地区を出た子どもたちが成人して戻り家を継いでいる。これは、住民が単に経済的基盤だけでなく、地域共同体として強く結束していることを表しており、開拓1世から4世が同居し2世、3世が先代の基盤を受け継いでいる。

集落づくりビジョンの策定

一人ひとりの思いやり、人と人の交流を大切にし、心豊かで、活気に活気に溢れる大野ヶ原地区を築くために地域づくりの方向性と、みんなが目指すべき目標を示す将来像を定めます。

みんなのでつくる豊かなむら

人々に
『優しい』
むらづくり

恵まれた自然資源を大切にし、自然との共存を目指すとともに、人々に優しいむらづくりを目指す。

- ① コミュニティの充実
- ② 環境美化運動の取組み
- ③ 自然環境の保全事業の取組み

資源や文化を
『活かした』
むらづくり

開拓によって創られた伝統と文化のもとで、人間性豊かな住民の育成と、子どもたちが集う活気に溢れたむらづくりを目指す。

- ① 郷土史作成事業の取組み
- ② 憩いの広場整備事業の取組み

交流事業による
『元気な』
むらづくり

すばらしい自然の中で、住民同士の交流を図るとともに、地域内外に情報発信し交流事業を行い、元気なむらづくりを目指す。

- ① 四国カルスト高原祭の取組み
- ② 地区民運動会の取組み
- ③ 大野ヶ原PR活動支援

活性化事業による
『新たな』
むらづくり

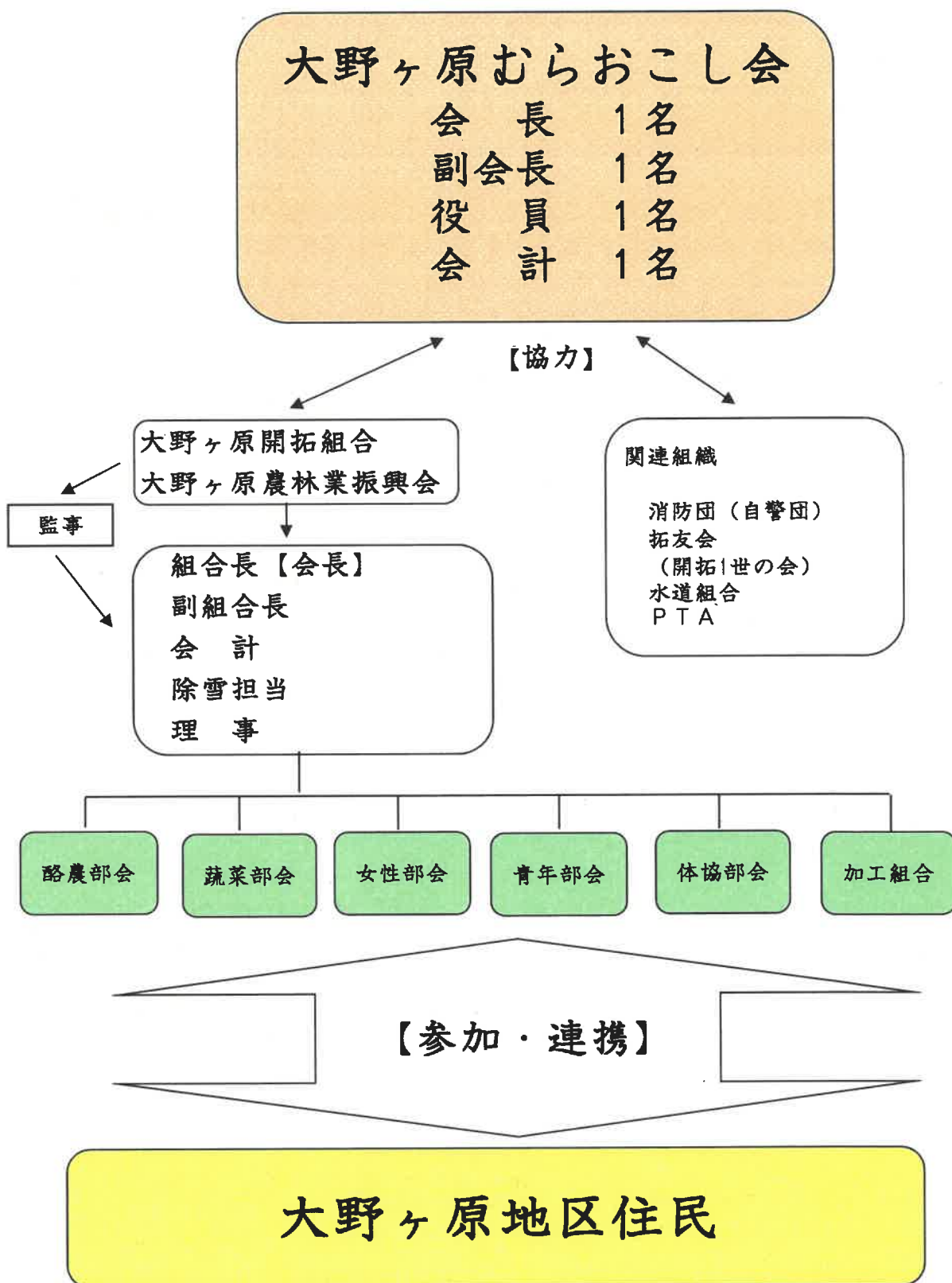
センター及び地域任用職員配置をきっかけに、新たな事業を企画し、これまでにない地域づくりを目指す。

- ① 新規事業の企画
- ② 地域づくり交付金の有効活用
- ③ 困りごとの解決

大野ヶ原地区集落づくり計画

	推進目標	事業名	事業内容	実施予定時期【年度】				
				5	6	7	8	9
①	コミュニティの充実	地域づくり組織運営事業	組織の円滑な運営を行う	○	○	○	○	○
②	環境美化運動の推進	環境美化運動事業	集落内に設置してある公園、花壇等の整備を行う	○	○	○	○	○
③	自然環境の保全事業の取組み	自然環境の保全事業	ブナの原生林等、素晴らしい資源の保全に努める	○	○	○	○	○
④	郷土史作成事業の取組み	郷土史作成事業	伝統行事や祭り等を後世に伝えるため郷土史を作成する			○	○	○
⑤	憩いの広場整備事業の取組み	憩いの広場整備事業	憩いの広場を設置し、住民が集える場をつくる		○	○	○	○
⑥	防災・防犯対策の取組み	防災・防犯対策事業	地域内の防災・防犯対策整備を行う	○	○	○	○	○
⑦	四国カルスト高原祭の取組み	四国カルスト高原祭	素晴らしい資源を活用し、四国カルスト高原祭を開催し地域内外の交流を進める	○	○	○	○	○
⑧	地区民運動会の取組み	地区民運動会	住民全員参加の運動会を開催し、住民相互の交流、健康づくりに努める	○	○	○	○	○
⑨	大野ヶ原PR活動の取組み	大野ヶ原PR活動事業	地域の魅力を情報発信するための支援を行う	○	○	○	○	○
⑩	新たな地域づくりの取組み	新規事業の企画	センター設置や地域任用職員雇用を機に、地域づくり組織の再編を含め、新たな事業を企画、実行する	○	○	○	○	○

大野ヶ原集落づくり推進体制



令和5年度大野ヶ原むらおこし会活動計画

月	内 容
4月	組織再編・活動計画協議
	総会
5月	役員会
	小学校・地区合同運動会
	大野ヶ原食堂事業
	営利活動事業試験運用 (あったらいいなが現実にプロジェクト)
6月	役員会
	環境整備・美化活動
	地域活性化事業(サウナで整う交流会)
7月	役員会
	心と体リフレッシュ事業(体操教室等)
8月	役員会
	四国カルスト高原まつり
	地域活性化事業(サウナで整う交流会)
	特産品消費拡大プロジェクト会議
9月	役員会
	特産品移動販売事業
	大野ヶ原食堂事業
10月	役員会
	地域活性化事業(サウナで整う交流会)
	地域の困りごと解決事業試験運用
11月	役員会(冬期事業協議)
	軽スポーツ大会
12月	役員会
	心と体リフレッシュ事業(体操教室等)
1月	役員会
	親子交流事業(スキー教室)
2月	役員会
	地域活性化事業(サウナで整う交流会)
3月	役員会